

中 高 同窓会々報

第94号



ご挨拶

令和に入り、2度目の夏を迎えています。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

オリンピックイヤーとして盛り上がるはずだった今年、思いがけず別のこと——新型コロナウイルス一色となり、健康面だけでなく生活や経済の上でもいろいろな影響が心配される年となりました。これからは、今までとは違う生活のしかたをしていかなければなりません。

例年6月に開催されていた同窓会理事会、8月の同窓会総会および懇親会も、今年はいつもと違う形で行われることとなりました。8月1日(土)に理事会と総会を同時に開催し、

会長: 栗飯原治仁 (昭和51年卒)

誠に残念ながら懇親会は中止させていただきます。

また同窓生の皆さまと集える日を楽しみに、そして、城南同窓生の柔軟で豊かな発想力を活かして、これからの新しい生活が健康で充実したものになりますよう祈念いたします。



「私の仕事観と人生～未来を作る城南高校生にエールを贈る～」

日本生命保険相互会社 代表取締役社長

清水博 (昭和54年卒)

2010年に第1回城南塾が開かれてから10年になりました。SSH(スーパーサイエンスハイスクール事業)特別講演会として、各界で活躍されている方をお招きして、生徒や教職員、保護者やOBの方たちへ講演していただいています。

昨年は、本校OBである日本生命保険相互会社代表取締役社長の清水博氏にお話をいただきました。高校時代の勉強方法やファイヤーストームへの情熱、大学、社会人へとどんどん世界が広がっていったこと、仕事は厳しかったが、その中で人との関わりや仕事をこなす力などが鍛えられていったというお話をされてから、生徒たちへ3つのエールを贈ってくださいました。



一つ目は、憧れを目標に変えてください。

憧れとは、こうなりたいとか、こうでありたいと理想を描くことです。憧れを抱くことは、とても大事なことであり、たくさん憧れを持ってください。そして、何かを成し遂げるには、憧れを目標に変えることが大切です。目標とは、達成したいことを具体的に定めることです。わたしの場合は、物理や数学をやりたいということが憧れでした。しかし、憧れのまま満足し、目標にしませんでした。これでは、実現しません。当然、大学院の試験に落ち、研究者になる目標も立ってないまま、憧れで終わってしまいました。目標を立てることで、達成するための計画ができ、努力するようになります。一年後はこうしたいとか、こうありたい。そのためには、三か月後はどうであればよいのかというような、長期の目標と短期の目標を、立てるようにしてください。短期の目標をクリアする度に、やる気が湧いてきて、長期の目標達成が、より近づいてきます。

また、目標は変わってきます。変わって当然です。自分の成長や見方・考え方の変化、世の中の変化などによって、目標は変わってくるからです。より良い目標になるなら、変えればいい。叶えたい目標は、ずっと心に置いて、チャンスを狙ってください。わたしは、30歳の時に留学の機会が与えられたものの、事情があって、その時には諦めざるを得ませんでした。ものすごく悔しかったです。しかし、留学の夢は捨てませんでした。機会を虎視眈々と狙っていたところ、10年後、40歳を過ぎたところで、一年半ロンドンに留学できる機会を得ました。夢が実現したのです。自分の中だけで目標を作ることも大切ですが、周りに口に出して言うことも大切です。そうすることで、応援してくれる人が現れると思うからです。

二つ目は、目標を追いかける努力を続けてください。

そのために、「こつこつとすること」、「繰り返すこと」、「振り返

ること」という三つのことを大切にしてください。こつこつとする習慣が身につけば、日々の成果は小さくても、積み重なれば、成長している実感も持てるようになります。一日1、2ページであっても、1、2か月後にはかなりのページになります。また、難しい問題に遭遇し、どう手を付けていいのかわからないと思ったとき、まずわかるところから、小さなことから、少しでも手を付けると、大きなものへの手掛かりや道筋がきっと見えてきます。

そして、それらを繰り返しながら定期的に振り返ることで、自分の強みと弱みを知ることができます。自分の強いところを、さらに伸ばすには、どうすればよいのか。自分の弱いところについては、何ができなかったのか、なぜできなかったのか、どうやればできるようになるのかを、考え続けることが大切です。わたし自身、人前で話をする機会が多々あります。うまくいく日もあれば、そうでなかったと思う日もあります。いつも反省を繰り返し、何がダメだったのだろうか、次はこう変えたいと振り返ることで、次勢に良くなっていくことを実感しています。

三つ目は、勉強以外で、心を豊かにすることや心を震わせることに、たくさん触れてください。

好きな音楽、映画、本、舞台、ゲーム、絵、スポーツ、旅行、友人との時間など、たくさんあると思います。

わたしが、高校時代に心を豊かにしたものを、心を震わしたことを三つ挙げますと、ファイヤーストームと、ドストエフスキーの「罪と罰」を読み終えたとき、そして、好きな歌手のラジオ番組を毎回欠かさずに聞いていたことです。特に、「罪と罰」を読み終えた瞬間は、長く大きなため息をついて、その後、何も考えられない時間がしばらく続きました。本を読んで、何も考えられなくなったのは、後にも先にもあの時だけでした。これら三つは、今でもありありと思い出すことができます。心を豊かにするものは、心だけじゃなく、考え方や行動にもよい影響を与えると信じています。例えば、目標を考え、目標に向かって努力することで、人への接し方や人への思いやりについて深く考えるようになります。心を豊かにするもの、心を震わすものに、できるだけたくさん接して欲しいと思います。

以上、未来を作る城南高校のみなさんにエールを三つ贈りました。大学に進む人、就職する人、それ以外の道に進む人など、すべての人の心にエールとして届いたら嬉しいです。

これから、みなさんは大人になり、みなさんが、未来を作ります。みなさんが作る未来は、働く会社の未来かもしれません。

みなさんが住む地域の未来かもしれません。

みなさんがやがて作る家族の未来かもしれません。

みなさんが作るそれぞれの未来が合わさって、日本の未来・徳島の未来が作られます。

大人になって未来を作ること。今、みなさんはそのための準備をしているのです。どうか、目標を立て、目標を達成するための努力を続けてください。同時に、心を豊かにする、心を震わせるものにたくさん触れてください。

わたしは、会社で30歳前後の人たちと話をすることがあります。30歳前後というのは、チームリーダーとしてバリバリ働いている年齢です。自信に溢れていることは、顔を少し見ただけでわかります。その人たちに必ず聞く質問があります。「自分の未来は無限に広がっていると感じているか?」という質問です。全員が広がっていると答えます。無限だと答えます。続けて、「自分は何でもできると思うか?」と聞きます。全員が何でもできると答えます。根拠はないができると思うと答えます。頼もしい限りです。頑張ってきたことと、頑張っていることを自信にして、自分の力を信じることによって、どんな困難も切り拓いていけると信じています。自分の力を無限に信じることで、それが未来を切り拓き、未来を作っていきます。15年後のみなさんも、きっとこのように答えてくれることでしょう。

みなさんの未来は、無限に広がっています。どうか、みなさん、夢を描き、憧れを抱いてください。それを目標に変え、懸命に追いかけ、成し遂げてください。その努力を続ける道のあちこちで、心を震わせる、心を豊かにするものにきっと出会えます。どうか豊かな心を育み、自分にしか作れない自分の未来を、自分の手で作り上げていってください。そして、その未来が必ず輝いていることを、城南高校卒業生として願っています。

城南高校の思い出

旧職員数学、藤本 万純 (平15~18, 21~31)



初めて城南高校に赴任したのは、平成15年のことでした。赴任した直後に、スーパーサイエンスハイスクールの認定を受けたことを知りました。そこから、二学期制導入、総合選抜制度廃止、新校舎建設、新しい制服の選定、応用数理科の開設など、変革期に勤務し、貴重な経験をさせていただきました。スーパーサイエンスハイスクールのために、旧校舎でウサギを飼っていたことも、高校では珍しく大変印象に残っています。途中で他校に勤務したり、育児休業などで離れていた時期もありましたが、合計で13年間お世話になりました。

学校や取り巻く環境の様々な変化の中で、これは変わっていないと感じたことがあります。新入生にどうして城南高校に進学したのか質問すると、勉強も部活動も両立して頑張りたいからと、答える生徒が多かったことです。その言葉の通り、生徒の皆さんは、自主自立の精神のもと、文武両道に努められていました。そんな生徒の皆さんの真摯な姿に、励まされ勇気付けられました。目に見える形で校舎や制服が変わっても、生徒の皆さんや先生方の心の中に伝統が受け継がれていくのだと感じました。

以前、学級写真を撮るときは、太陽の日差しがまぶしい「アババイ広場」でした。そこに、城南高校のシンボル「アババイ像」のじょうくん・みなみちゃんがいました。場所は変わりましたが、在学中から卒業後も皆さんの活躍を、今までと同じようにずっと見守ってくれていると思います。

今年の春は、新型コロナウイルスの影響で、授業も部活動もままならず、いつも通りに過ごすことが難しい状況ですが、また校舎やグラウンドから生徒の皆さんや先生方のエネルギー弾ける声や音色が響き渡る日が早く戻って来てくれることをお祈りしています。

美術・黒崎先生を偲んで

水口 裕務 (昭和52年卒)



少年老い易く学成り難し、卒業からはや四十余年、いまだ学生気分が抜け切れません。平素の研鑽不足はさておいて、絵描きに憧れていた高校時代を振り返ってみます。

名門城南高校の日常は、高度な知育とそこそこハードな体育とも、目まぐるしい授業展開にあって、そんななか、唯一息を抜けるのが芸術の時間でした。隔離された特別教室の静けさ、2時限を通じた緩やかな時間の流れに身を委ね、じっくり考えることで見えてくるもの、答は一つに限りません。

芸術科担当のどの先生も、いわゆる名物教師の濃いキャラクター色とは本質を違え、しかし凡庸ならざる表現者として孤高の存在感を放っておられました。ぼくたち芸術かぶれの感受性はそこにしびれたわけです。

とりわけ美術の黒崎志郎先生はストイックで眼光鋭くも、どちらかといえば口数は少なく、あとは自由にやりなさいとにこやかに仰ってくださいます。ですが、結果については歯に衣着せぬダメ出しも厳しく、そこから造形の原理を覚えていったものです。いつだったか美術部で高松へ全国コンクールの巡回展を観に行った時、プロの超絶技巧の細密画を評して、技巧に走ってはつまらないとぼっさりでした。

当時より徳島画壇の中核を担う画家として、城南に黒崎ありの名声を博していましたが、功名心は微塵も感じません。教育目的の美術教師であることと自己表現を探究する画家であることのジレンマはあったかもしれませんが、自然体で分け隔てなく、高校生

目線よりも高い視座から一線の指導をいただいたことは実にありがたかったと思います。

ここで残念なお知らせをしなければなりません。入学時の出会いから最後にお会いした2017年の夏まで、卒業後も師と仰ぎ、おこがましくも同士としてお付き合いくださった黒崎先生が、2019年3月にご逝去されました。享年85歳でした。

しかしながら画家は、自身の思想や美意識を表現に宿していません。その画業の集大成を拝見する機会に恵まれたことは感謝に堪えません。会期は2019年12月から2020年1月に跨り、会場は阿波銀プラザ、新築ビルのこけら落としという晴れ舞台が、意外にも先生にとっての初個展となりました。

展覧会図録から二題みておきましょう。

テーマとする題材に向けられた実直な眼差し、骨太な写実性とも一貫しています。新旧作を照らしても黒崎イズムの潮流に大きなぶれはありません。

油彩図版「塩飽の集落」100号・1996年(第28回日展出品)は、重厚な筆致の重なりに細部の説明を緩めつつ、現場の空気感と併せて画面空間そのものを構築した造形実験。油彩の重層的な発色効果は奥深くも脂ぎったしつこさのない不思議な透明感が魅力です。ついでいえば最近作は幾分写実の再現性を強めており、ベテランの域にきてますます洒落な新境地が拓かれたようです。

水彩図版「図書室一隅」水彩全紙・1977年(第65回日本水彩展出品)は、ぼくの卒業年の作で、当時の図書室も懐かしく、モデルの女性は誰かしら皆さんの記憶にあるかもしれません。先生は水彩画にも定評があり、ごく日常の人物画題を画品よく謳いあげています。窓からの逆光が柔らかく美しい、昼下がりの情景。

先生と美術談義するいつもの調子で述べていたら随分長くなりました。最後になりましたが、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。いずれまた作品と対話できることを楽しみにしております。



退任にあたって

前校長 永松宜洋



退任にあたってご挨拶を申し上げます。

初任の川島高校にはじまり、高等学校教員を続けてきましたが、平成30年(2018)4月から勤務した城南高校が最後の勤務校となりました。令和の時代の到来とともに去ることに感慨深いものがあります。城南高校では素直で前向きな生徒たちと真剣に教育活動に

取り組む先生たちに恵まれて教員生活を終えることに幸せを感じています。

さて、この二年間、徳島県の少子化に伴う本校でもクラス数の減少という時代の抱える課題はもちろんですが、大学入試改革、コロナウィルスの感染拡大防止への取り組みといった未経験の事態に困惑させられました。そんな中でも前向きに教育活動を支えていただいた多くの皆様に改めて感謝を申し上げます。まだコロナ対応についても先が見通せない状況ですが、令和4年度からの教育課程改編、成人年齢も引き下げへの対応、大学入学共通テストへの取り組みなどの課題にも、力を合わせて乗り越えたと信じています。

ある城南の同窓生の方が語っていた高校生活は、本当に自由で、明るく楽しいものでした。お話を聞きながら、彼らを育てた「自主・自立」の校風は、生徒を見守る教師の寛容さや人間への深い信頼と理解によって醸成されたのではないかと感じました。

今も、生徒たちは、学業だけでなく様々な活動や交流を通して、学び、悩みながら、自らの時代を生き抜く力を育てています。これからも未来を作り出す若者の力を信じ見守っていただければ幸いです。

最後になりましたが、城南高校の生徒、保護者の皆様、先生方、そして同窓会の皆様には本当にお世話になりました。城南高校の発展と皆様方のご健勝をお祈りいたしております。

活気みなぎる城南

新校長 前田茂



創立145周年の節目にあたる令和2年度、校長として赴任しました前田茂です。初めての城南高校での勤務となります。歴史と伝統に輝く城南高校での勤務となり、身の引き締まる思いです。旧徳中・城南高校同窓会の皆様、どうかよろしく願い申し上げます。

私は、県西部脇町の出身で、教職に就いて以降、穴吹高校・池田高校、県教育委員会などの勤務を経て、昨年度までの二年間は、穴吹高校校長を務めて参りました。城南高校におきましては、将来のリーダーとなる「未知の世界に果敢に挑戦する夢と志あふれる人財」の育成に全力を尽くし、持続可能な社会の担い手作りに努力して参ります。

今、校長室には、平成30年4月文部科学大臣からの「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」指定書と県高校総体での三本の優勝旗があります。「自主・自立」の校風のもと培われた「文武両道」の精神をそのまま体現するものと感じています。このうち、SSHに関しましては、第四期目の中間年を迎え、これまでの研究内容に関し文部科学省に報告をいたします。応用数理科・普通科において広く研究が進められており、大学や専門家との連携、アメリカ研修旅行等と充実した取り組みとなっており、県内外の理数教育をリードしています。

部活動や学校行事についても、全国大会で活躍した男子卓球、女子バレーボール、男子テニスをはじめ、吹奏楽部等県大会等でめざましい活躍を見せています。古き伝統をつなぐ学校行事であるFSや祖父母の会についても脈々と受け継がれており、復刊された「渦の音」には、充実した教育環境のもとでの城南高校の輝きと在校生の活躍が詳細に記録されています。これらは、ひとえに、同窓会の皆様のご支援とご協力の賜と心より感謝を申し上げます。

今後とも、城南高校並びに在校生を温かく見守り、ご激励くださいますようお願い申し上げます。結びに、皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ、挨拶いたします。

FS 中継ぎの記

旧職員国語、善本洋之(平16～平29)



桂富士郎先生は、城南高校にFSを根付かせた「城南FSの父」のような存在である。私は先生に古典の放課後補習を担当して頂いた。一年かけて「平家物語」を講読するものであったが、大河ドラマを凌駕する面白さで、発熱で早退した同級生が、「どうしても補習を受けたい。」と再登校してきたという嘘のような出来事もあった。

私は桂先生の影響で、国語科の教諭になった。城南高校に赴任した初日、校長室に呼ばれ、「FSを担当してほしい。」と言われた。桂先生は既に亡くなっていたが、ささやかなご恩返しになればと思い、お引き受けした。現在、燃やす薪の量はトラック一台分

くらいだと思うが、当時は三台分以上あり、夏休みのクラス作業も膨大だった。中には何のためにやるのかわからないような作業もあり、当時のFS実行委員たちが勇気を持って作業を精選した功績は非常に大きい。「プールの側の松の木が枯れたので、FSで燃やしてほしい。」と言われたこともある。朝から晩まで、いくら切っても作業が終わらない。林業をなさっている保護者の方が、見かねてチェーンソーで切ってください。大木が瞬く間に輪切りになるのを見て、一同唖然とした。(その節は本当にありがとうございました。)また幟を投げ込む時、「クラスの誓いやキャッチフレーズを叫ぼう。」と提案した。体育館で「こんな感じで、雄叫びを上げながら・・・」と実演したら「何それ?」「センスない。」と前評判は散々であったが、いざ最初のクラスが投げ込んだら、俄然盛り上がり、以後FSの定番になった。「片思いの彼(彼女)とハチマキを結んで投げ込むと恋が成就する。」というキャンペーンも仕掛けてみたが、いつの間にか「クラス全員のハチマキを結んで投げ込むと、クラスの絆が深まる。」に変化し、これも定番になった。私の夢は、定年退職後、通りすがりのおじさんとして、こっそりFSを見に行くことである。

ただただ感謝あるのみ

高木純一郎 (昭和 36 年卒)



私は、本年 3 月末をもって本校同窓会事務局長を退任することになりました。

平成 22 年 9 月、木村清志前会長より同窓会事務局の会計をやってほしいとの電話をいただきました。君が適任だと皆が言っている、との落とし文句でした。少し考えさせて下さい、と言っ

て、後日受諾いたしました。というのも、本校在任中に、百周年記念事業の募金会計として、各年次の役員の方々と顔を合わせる機会も多く、親交も深まり懐かしさもあったからだと思います。もうとくに昔の話になっているのですが…。

着任すると、本校硬式野球部は連戦連勝の勢いで、秋の県大会で優勝。四国大会では敗れたものの、二十世紀杯で、創部 113 年目で初の甲子園出場、学校全体が大いに盛り上がり、特別後援会の設立、臨時理事会の度重なる開催、募金活動と同時に同窓会も大いに活性化し、その年の 8 月の同窓会総会は、120 名を超え、翌年は 160 名の大盛会となりました。

また、卒後 30 年目には、総会時の担当学年としてのホスト役を務めることになっていますが、どの担当学年の方も、私と同時代に城南高校で共に過ごした方ばかりで、運営等についてもお願いしたりされたりで、意欲的に取り組んでいただきました。心より感謝いたします。

着任したその年より、同窓会報 85 号として、株式会社サラトを通じて全国の会員へ郵送されることとなりました。今年で 10 年目の 94 号が全国に配布されました。執筆していただいた方々には、ただただ感謝あるのみです。

この間、多くの知己に恵まれ、交流範囲も広くなりました。苦しい時もあったように思いますが、今となってはどれも楽しい思い出として残っています。役員、理事の皆様をはじめ、お支えいただいた木村清志前会長、粟飯原治仁会長、後援会の皆様には心から深く感謝申し上げます。

どうぞよろしくお願いたします

船越隆子 (昭和 51 年卒)



はじめまして、昭和 51 年卒業の船越隆子と申します。この 4 月より、高木先生のお仕事を引き継いで、事務局のお仕事をさせていただいております。どうぞよろしくお願いたします。

城南高校を卒業して、大学以降ずっと東京にいましたが、2000 年に、父が入院したのを

きっかけに徳島に帰り、今年でちょうど 20 年がたちました。あっという間の 20 年、その間に、父、そして母と暮らしながら、フリーランスで翻訳の仕事をしてまいりました。また、数年前からは、友人の経営する塾でも英語を教えたり、忙しいのやら自由なのやらよくわからない毎日なのですが、同級生の現会長粟飯原さんからお声をかけていただき、事務局をお引き受けすることになりました。

高木先生が長らく事務局長を務められ、城南高校のことに精通し、教職員の方々とともに懇意になさっていて、スムーズに運営してくださっていた事務局の仕事ですが、私はといえば、城南高校の門をくぐるのも本当に久しぶりで、新しくなった校舎にびっくりしたほど。しかも職員室は、高校生の時には、遅刻した際にハンコをもらいに入るところというイメージがあって、扉を開けるのはいまだに緊張します。こんな私が、高木先生のお仕事を無事に引き継いでいけるのか不安しかないので、校長先生をはじめ先生方や職員の方々、粟飯原会長や副会長、役員の方々が親身に接して下さるので、皆さまにご教示いただきお知恵をお借りしながら、なんとか務めていけたらと思っています。

このような頼りない私ですが、どうぞよろしくお願いたします。

本年度総会幹事担当学年 (平成 2 年卒) からのメッセージ

★忘れられない同級生

金森弘一郎

城南高校の同級生を三十歳代の若さにして三人も亡くした。一人は背の高い元バスケット部の働き者。発病から一年も経たずに子供二人を残していってしまった。一人は奥さんを亡くした半年後、追うように急病でいってしまった。結婚式で友人代表のスピーチをさせていただいたほどの仲だった。一人は小学生からの釣り仲間。FS 旗に似顔絵を描かれるほどの人気者。同級生が集まると彼らの話題になり、年に数回はそれぞれのお墓に近況の報告にも行く。決して忘れられない同級生。私も彼らのように死ぬまで一生懸命に生きる。

★羽ばたけ！城南高校サッカー部！ 川内元徳

城南高校の歴代のサッカー部の皆さん！お元気でしょうか。私も当時、サッカー部に所属していました。現在は少年サッカーの指導者として、サッカーに携わっています。小学生に対し、サッカーを通じて人間的にも成長してほしいとの思いで続けています。当時、キャプテンをしていた同級生も他のチームで指導者をしており、対戦することも多々あります。当時、キーパーをしていた同級生は早くに亡くなってしまい残念な気持ちでいっぱいです。遠くから、城南高校サッカー部の活躍を見守っていることでしょうか。私の息子も今年、城南高校に入学

しました。そして歴史あるサッカー部の一員へ。
羽ばたけ！城南高校サッカー部！

★つなぐ

清重浩二

城南高校の校訓である [自主自立]

在学中はなんとなく、聴いていた言葉でしたが社会に出、色々な経験をする度に、ごく当たり前であり、人と関わり合いながら生活するうえでとても重要な事だと気づかされました。
自分で考え、そして責任を負う。在学中は他の学校に比べ校則がゆるく、楽だなど安易な考えでしたが、城南高校はそれだけ高校生であった私たちを一人の人として、信用し認めていただいていたのだと。それと私もお酒を飲める歳になり、ある時初めて入った店でたまたま横で飲んでいた人と話をすると、城南高校のかなり年上の方だと言う事があり、[君も城南か？] と言われ、その日何軒か飲みに来て行っていただき、ご馳走された事がある。
私も、もういい歳なのでまだ会った事のないすぐ年下の城南卒業生に今度は私がご馳走したいと思っている今日この頃である。

★夢の舞台へ

久島隆一

卒業してから早 30 年以上経ちました。
娘も息子も城南高校でお世話になり無事卒業しました。
息子は野球部でお世話になり、私自身も最終学年では保護者会長をさせていただきました。甲子園には手が届きませんでしたが、息子共々野球を通して色々な面で成長させていただき、指導者の方々、保護者の方々には感謝しております。
息子は大学でも野球を続けており城南高校野球部で培った技術や精神を存分に発揮して活躍して欲しいです。後輩には是非夢の舞台、甲子園に行って欲しいです。応援しております。

★先輩の策略

四宮三記子(旧姓 笹田)

当時、私は城南高校バスケ部で最初は頑張っていましたが、段々サボる事を覚えてしまいました。
2 年生の最後に来年のキャプテンに私になることが決まりました。それはあまり練習に行かない私を見兼ねた先輩の策略でした。
私はキャプテンになった事ですごく責任感を持ち毎日練習に行く様になりました。城南高校で沢山の事を学び友達も沢山でき、今でも大切な宝物です。そして先輩にすごく感謝しています。

★城南高校ラグビー部での思い出

澁野武志



『気合い入れー！』仲間と励まし合いながら我々はひたすら楕円形の行方を追いかけて放課後のグラウンドを走り続けていました。
当時は第 1 回ラグビー W 杯の開催、神戸製鋼の日本選手権連覇、
大学ラグビーでは早稲田・明治・慶応大学がしのぎを削り合い、今よりラグビー人気は高かったように思います。二年生の夏合宿では憧れの長野県菅平合宿に参加させていただきました。関東や関西の有名校と練習試合を行ない、完膚なきまでに叩きのめされて実力の差を実感しました。ラグビーを通じて学んだ仲間を思いやって仲間と同じ目

的に向かって進むという精神は社会人になっても必ず活かされま
す。
現役の皆さん、日々の厳しい練習に対しても自分に厳しく、仲間
を思い、常に積極的に取り組んで今後も大きく成長してください。

★猫のいる生活

出口浩治



みなさん、ご無沙汰しております。
現在、妻と猫の「りく」との、二人と一匹
でゆったり暮らしております。
私達と彼との出会いは、県立動物愛護セン
ターでの譲渡会でした。
彼に一目惚れした私達は、小さい命を守る
取り組みに賛同し、譲り受けました。
彼の一挙手一投足に笑い、癒され、お陰で
夫婦喧嘩も少なくなった気がします。もし、
ペットを飼いたいと思われたら、一度は動物愛護センターに行か
れる事をオススメします。

★常に「全力疾走」

中原隆年



当時の野球部は現・富岡西高監督 小川浩
先生の熱血指導のもと他の部活と共有した
狭いエリアで創意工夫し強豪校に勝つ為に
常に「全力疾走」を徹底していました。練
習は部室を出た瞬間から全力疾走し無駄の
ないキビキビとした動きを意識していま
した。
城南の野球は高校生らしいひたむきな野球
と評判になったことを今でも誇りに思っ
ています。

私は現在、城南硬式野球OBクラブで再び甲子園を目指しています。
体の衰えも否めませんが現役選手に負けないよう常に「全力疾走」
したいと思っています。

★最高の幸せとは

宮武美樹 (旧姓 森)

城南高校を卒業して、早 30 年が経った。32 才で結婚し、二人
の男の子に恵まれた。その子供達も大きく成長し、これまでの人
生は多少の山や谷はあれど、概ね幸せだと言える。
しかし、今世界は新型コロナウイルスの脅威に晒され、目に見
えないウイルスはいつ自分自身や大切な人に襲い掛かるとも知れ
ない。日々増える感染者や死亡者の数を目の当たりにすると、平
凡な毎日こそが最高の幸せだと痛感させられる。
この未知のウイルスが一刻も早く終息し、世界中の人々が平凡
な毎日を送れる日が来ることを心から願ってやまない。

開校記念日の歌
大滝山の 果て近く
富田の川に 影受けて
我が中学の 嬉しくも
今日は成りにし
佳き日なり

明治 35 年入学式で歌った人
たちは、どんな人たちだった
のだろう。
昭和 39 年、憧れの城南高校
に入学した頃の向学心に燃え
ていた時代を思い出し、歌っ
たことがないのに懐かしさに
涙が溢れます。(道)

YouTube
QRコードを読み
込んで、
リンクをクリック
すると、聴くこと
が出来ます。

令和元年度 旧徳中・城南高校同窓会総会・講演会・懇親会

「令和元年度 旧徳中・城南高校同窓会 総会・講演会・懇親会」が令和元年8月11日(日)に阿波観光ホテルで開催され、全国各地より総勢100名の方にお集まり頂きました。

◆総会では、上地一郎副会長(昭和51年卒)進行で、森一生副会長(昭和48年卒)開会の辞の後、粟飯原治仁同窓会会長(昭和51年卒)、永松宜洋校長にご挨拶を、来賓の山元みどり松柏会会長(平成元年卒)にご祝辞を頂いた後、「平成30年度事業報告・決算報告・監査報告」「令和元年度事業案・予算案」等の説明と審議が行われ、いずれの議案も満場一致で承認されました。その後、恒例の表彰へと移り、今年は、最年長参加者の岡島一郎さん(昭和21年卒)と、最年少参加者の飯田悠衣さん(平成26年卒)へ、それぞれ賞状と記念品が授与されました。川竹道夫副会長(昭和41年卒)の閉会の辞を以て総会は終了しました。

幹事 大泉(岡田)啓子(平成元年卒)

◆講演は、ギタリスト堀尾和孝さん(昭和49年卒)をお迎えし、「ギター人生半世紀。未だ反省期」と題してご講演頂きました。軽快で痛快なお話にギター演奏も交えてくださり、あっという間に皆堀尾ワールドに引き込まれ、それはそれは楽しい時間を過ごすことができました。



◆懇親会は、山元みどりさん(平成元年卒)進行により、平成元年度同窓会幹事代表・橋本洋二郎さん(平成元年卒)の挨拶の後、岡島一郎さん(昭和21年卒)の乾杯のご発声で始まり、久しぶりの再会に会話も弾み、世代を超えて



交流を深めることができ、有意義な時間となりました。そして、再び堀尾和孝さんが登場、世界的ギタリストの生演奏は本当に素晴らしく、音楽を五感で感じることができました。そして、恒例の校歌斉唱、城南校歌では幹事学年が壇上へ上がり、会場が一体となり盛り上がりました。その後、次年度幹事代表の金森弘一郎さん(平成2年卒)の挨拶があり、最後に飯田悠衣さん(平成26年卒)の万歳三唱にてお開きとなり、なんとも心地よい余韻の残る懇親会となりました。

沢山の方々のご理解、ご支援、ご協力により開催できましたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。心よりお礼申し上げます。



2019年城南FS会（近畿支部）報告

城南FS会（近畿支部）：糸田川廣志（S42）

城南FS会（近畿支部）は、2019年9月29日（日）、新阪急ホテル（大阪市北区）において、2019年の総会（設立後46年）を開催しました。

今回は、設立50周年に向けたイベント中心の総会及び懇親会としました。

総会は、粟飯原治仁同窓会会長挨拶に続き、永松宣洋学校長の現状報告をいただき、同窓会の状況や城南高校の現状文武両道を知ることができました。



次いで懇親会前に、徳島で活躍するシンガー・ソング・ライター皆谷尚美さんのミニライブを行いました。8月に20周年記念コンサートを徳島で開催し、その中から“この世界の片隅で”ほかに加え、最後は阿波弁ソング“このまちとくしま”を参加者と一緒で歌うミニライブでした。皆谷さんは徳島市立高出身です。

久々に阿波弁に接したミニライブ後は、高木純一郎事務局長の乾杯発声により、懇親会へ移りました。懇親会のハプニングは、この日は『四国放送まつり』最終日でラジオ番組レギュラーの皆谷さんが、懇親会場から電話出演することとなり、その時は会場から歓声を上げて、我々も間接参加でした！

懇親会の最後は、S42卒のノーベル賞候補寒川賢治氏が会長を務める“関西阿波おどり協会”選抜による阿波おどりの演舞披露がありました。

会場の中心部を空けて、入場から総踊り的な雰囲気をつくり、思う存分の演舞を繰り広げてくれました。最後は、当然、徳島人ですから『総踊り』です！

究極の2拍子に乗り、会場をみんなで踊り回りました！参加者全員での集合写真も撮りました！

参加者は66名で、うち子供さんが2名含まれています。これを機に、子供連れも歓迎し受け入れることとしました！

今後の城南FS会の方向ですが、2023年に設立50周年を迎え、城南FS会としては解散する方向で基本は変えていませんが、皆谷尚美さんを迎えたことで、兄弟高の協高、富西に加え、市高、



池高、川島、徳商、阿波、阿波西等の近畿高校同窓会の合同開催を企画したいと考えています。

その中で、城南近畿も参加することで継続は可能かと思っています。また、同窓会が出来ていない高校も参加できるものとする事で、幅広く徳島人が集まるようにしたいと考えています。

今年はその芽を創りたいと思います。2020年城南FS会は、エネルギー補給期間として、10月中旬にレストランモリシタにて開催を予定しています。

来年は、合同も視野に、再び皆谷尚美さんをお願いし、賑やかにステップの企画をしたいと思います！



最後に私事ですが、4月に7回目の干支誕生日を無事通過し、8回目の干支誕生日に向かって、技術士及び測量士として現役を続けています！

城南FS会へのご支援、よろしくお願い申し上げます！



2019年 渦の音クラブ(関東支部) 活動報告

事務局 三橋浩志(昭和59年卒)・三橋稔子(昭和59年卒)



渦の音クラブ(関東支部)は、関東在住の旧制徳島中学校と城南高校卒業生の相互の交流と、母校の支援を目的として活動しています。会報の発行、総会の開催、若手会員交流会の開催、年3回の理事会の開催、母校の東京開催(全国大会)の激励などの活動をしています。会員交流として、2019年11月2日(土)に、ホテルニューオータニのレストラン「ガンシップ」で「令和元年度・第44回渦の音クラブの集い(総会・講演会・懇親会)」を開催しました。73人の城南高校の卒業生が集まり、交流を深めました。総会では、澤田会長(昭和49年卒)の開会挨拶、櫻井事務局長(昭和57年卒)による決算、事業計画、予算に関する事務局提案があり、原案通り承認されました。徳島からは、永松宣洋校長先生、粟飯原治仁同窓会会長(昭和51年卒)にご出席頂きました。松山校長先生からは、文武両道で活躍する現役学生の様子、特に部活動の報告や、進学成績などが報告されました。また、徳島県東京本部情報発信幹の利徳拓也さん(昭和62年卒)から、徳島県の近況報告と「ふるさと納税」のご説明を頂戴しました。

講演会はフォトグラファーの中田浩資氏(城南高 平成6年卒)による『玄奘三蔵が歩いたルートをたどる撮影紀行-ディープな世界を旅して-』をテーマにしたフォトトークでした。多数の美しい写真に加えて、ウイグル自治区の知られざる姿など、実際に世界を旅する中で得られた世界の姿を分かり易い語り口でお話し頂きました。

懇親会は幹事学年の平成元年卒業生の皆さんが団結して、素晴らしい企画を展開頂きました。「中学校対抗:城南愛クイズ」は、出身中学ごとに学年を越えてグループを結成し、城南高校に関する歴史をクイズで楽しみました。金長まんじゅうや金ちゃんラーメンなどの徳島の物産の景品をかけて、早押しクイズのスマホアプリを活用し、大いに盛り上がりました。さらに、会場一体となって阿波踊りを踊りました。今年は、幹事学年の手配で、特別製の

うちわが配布され、同じうちわをもって阿波踊りを踊りました。最後は、もちろん旧制徳島中学校の「阿州の英才」の校歌と、城南高等学校の校歌をみんなで斉唱して、来年も集まることを誓い合ってお開きとなりました。今年は、11月1日(日)に「令和2年度・第45回渦の音クラブの集い(総会・対談会・懇親会)」をライブ配信とともに開催します。中止の場合も、オンライン同窓会を開催します。同封の総会案内をご覧ください。

また、関東在住の50歳以下(昭和63年卒以降)の城南高校卒業生による「第8回若手会員交流会」を2019年9月28日(土)に銀座ライオン新宿店で開催しました。若手会員の発掘と交流を目的に開催されており、2019年は24人が集まり、城南高校のキズナを深めました。今年も10月3日(土)に、「第9回若手会員交流会」を参加費無料で開催します。なお、中止の場合もオンライン交流会として開催します。



さらに、春高バレー(第72回全日本高等学校選手権大会)に徳島県代表として出場した母校女子バレーボール部の応援と激励金をお渡ししました。初戦は、群馬県代表の西邑楽高校にセットカウント2対1(25-18 24-26 25-22)で勝利しましたが、2回戦は強豪の私立熊本信愛女学院高校にセットカウント0対2で敗退しました。東京で城南高校の応援ができること、これからも楽しみにしています。



城南昭三六会「喜寿同窓会」

幹事 杉本紘彦 (昭36年卒)

喜寿を祝い、再会を喜び、若き日の思い出を語り、今を励まし、老いを楽しむひとときを共に過ごしたいと、「喜寿同窓会」を、令和元年十月三十一日(木)、徳島市の阿波観光ホテルで開催しました。

開催案内に答えて県外からの二十二名を含む、七十一名の参加を得ました。欠席メンバーからは、「次回のために体力づくり実施中」などの、元気な声もありましたが、腰痛、酸素ボンベ、脊柱管狭窄、救急車、手術、入院中、療養中、など心身の不調の言葉が多く寄せられました。同窓生逝去の悲しい便りもご家族から七通寄せられました。

同窓会は集合の後、記念撮影をすませ、森本君の総合司会のもと、城南同窓会事務局担当の高木君の発声で開会しました。

まず、三年前の同窓会以降に亡くなった十二名を、住友君から紹介した後、先立たれた恩師と友のご冥福を祈り、黙祷しました。

引きつづき、会長の廣瀬君より、「七十五歳を過ぎてから、めまい症候群、今月は急な血圧上昇と、さながら、病気の総合商社の道をたどっていますが、七十七歳まで生きて、本日参加できたことを素直に喜びたい」との挨拶がありました。

青木君の「乾杯」で祝宴となりました。各テーブルで、友の名を名札で捜す物忘れや、聞こえにくい耳、かすみがちな眼などの高齢現象がみられましたが、お酒とワイガヤで会場が一つになりました。

盛り上がりの中で「話し放題一分間」が始まり、健康のこと、趣味のこと、海外旅行の思い出など多方面の話が会場にあ

ふれました。中には「話し放題十分間」になりそうな友も・・・時間をかなり超過して「話し放題」を終りました。

カラオケで鍛えた、堤君のリードで、三年ぶりの校歌が高らかに会場に響きました。そして、校歌の余韻の残る中、高島君から閉会の言葉があり、喜寿同窓会は無事に終了しました。「ふと浮かぶ 高校校歌 秋深し」当日の井内君の一句です。校歌と共に、幅一センチほどのガラスも継ぎはぎした、ガラス窓から見た眉山が目浮かびました・・・ところで、「城南男前節」は、今?・・・。

喜寿同窓会終了後、母校の後輩の皆さんの活躍を願って、心ばかりの寄付を行いました。

今後の三六会同窓会の開催は未定ですが、同窓会発足以来、ご苦労頂いた各組幹事の皆さん、特に、表に出ず陰でしっかりと支えてくれた女性幹事の皆さん、お疲れ様でした。そして、会長退任後も、案内状作成・発送を継続して引き受けてくれた、本庄君に感謝します。



城南三八会 (昭和38年度卒業) 同窓会報告

文章責任 平井良明

十一月二十四日阿波観光ホテルで我々が三八会同窓会を開いた。参加数は恩師一名、会員四十名であった。恩師の富島先生からは「この学年の自由闊達さが忘れられない。」とお褒めの言葉をいただき、東京支部幹事代理の羽山君から毎年七月に二十名ほどが集まり家族のような雰囲気のを報告してくれました。責任者の平井からは、特に『住所及び近況報告集』の発行について広告と寄付をいただいたこと、また今になって住所不明者が減少した



ものの、物故者が五十九人に上ったことなどを報告しました。全員起立して物故者に黙祷をささげる。乾杯の音頭が終わるやいなや、十八歳からの空白の時間を取り戻すべく、全員が目星光らせ頬を紅潮させておしゃべりに夢中になる。その騒音の中で3分間スピーチを行う。西洋医学と東洋医学を学び更に今では仏教医学で人々を救っているという御仁、交通事故で意識不明の経験をして死の恐怖感が減ったという人、三十歳の頃よりずっと今がキツイ激務をしている人など。宴会後一群は母校の見学、すでに二度建設され直した現代的な校舎に感嘆の声を上げ、変わらぬ岡本監

輔(韋庵)の石碑を懐かしく、我々が植樹した桜の木の無事を確認しました。もう一群は同ホテル内でおしゃべりに花を咲かせた。しかし夜の街に繰り出す元気はなく、それぞれの家路につき、またお別れです。

「カリカリコリコリまたカリカリコリコリ、永遠に続く鉛筆を走らせる音、この鉛筆の先に自分のすべてをかけて、カリカリコリコリ」これが城南高校時代を共に過ごした強烈な印象。再度会える日を。

昭和48年卒業生同窓会

井内康人(昭和48年卒)

令和2年1月2日17時よりJRホテルクレメントにて79名の参加を得て開催しました。

従来より私達の学年は、同窓会を4年ごとオリンピックイヤーに開催してきました。今回は皆さん前期高齢者の仲間入りしたものの、まだまだ元気なつもの揃いです。

実は、私が4年前に幹事代表をお引き受けしてから、20人規模のミニ同窓会を年3回程度、4月の花見、お盆の暑気払い、師走の忘年会と開いてきました。ネットで連絡のつく人ばかりでしたが、毎回盛り上がり、時には、同窓生の日舞の発表会を料亭「しまだ」で行ったりして、今回の本番同窓会の開催までより親交を図ってきました。

さて、開会です。

幹事代表の挨拶に続き、志半ばで亡くなられた物故者15名への黙祷を行いました。

恩師の大津先生のお言葉を頂戴した後、当日大当たりを引き当てられた同窓生による乾杯の

発声で賑やかに開宴です。

正月ということで、和服を見事に着こなした同窓生による日本舞踊。全員が高校時代の「俺、おまえ」に戻り、入学以来、約半世紀にわたるそれぞれの人生を語りあいました。

宴たけなわとなったところ、城南名物ファイヤーストームに想いをはせて、全員輪になり肩を組み「城南健児の雄叫び」「校歌」を高らかに斉唱。あの頃にタイムスリップした夜でした。



昭和40年卒同窓会

昭40年同窓会5組幹事補佐 武 輝幸

例年同様(阿波観光ホテル・11月第4日曜日・14時開宴)で催されました。今年度は、同窓会事務局高木さん(昭和36年卒)の要望に添い、駄文の羅列ではなく、当日撮影した写真を中心に特記事項のみ記載することにしました。

(1) 参加人数の減少に歯止めがかからず、昨年の57名から更に減少して44名になりました。毎年開催の影響と高齢化が原因であろうかと思いますが、一方県外からの参加者が11名と多く、女性参加者が男性参加者の半分で彩りを添えてくれたのは幹事にとって救いでした。



(2) 今年度は新しい趣向として、5組の元木康文君に依頼して、彼が参加している「劇団神戸」で10月に好演した田辺聖子さんの



朗読劇「男と女より」の一篇「舌ざわり」を劇団の相手、仲野恵子さんにもご来徳頂いて、再演して貰いました。ゲスト参加への拒絶反応も心配しましたが、介護

等身につまされるところもあり、概ね好評でした。

(3) そのあと、1組の竹村文宏君(昨年の会報では4組の武村璋彌君と間違っ失礼しました)と藤本孝君の伴奏で、恒例の校歌斉唱と女子会有志によるコーラスと続きました。

参加された女性からは、「春時代を思い出せて感慨深いものがありました」と後日わざわざお手紙でお礼の言葉が届きました。

(4) 同窓会の準備・運営も大変です。

どの年度もそうでしょうが、案内しても返事なしが大半を占めます。379名に案内して返事があったのは184名でした。

そして、今後の案内事務の簡素化を考えて、メール・MMS等による案内電子化を訴え、案内の要否も含めて調査票の記入をお願いしました。

返事184名のうち、案内要が153名、内、電子的送達が121名、郵便が32名でした。

団塊世代の先駆けとは言え、おそろおそろガラケーからスマホに乗り換え、孫との通信や写真をスマホで楽しみ始め、情報通信の巨大な大洋に漕ぎ出した我々ですが、通信手段の世界においても、従来の郵便から電磁的通信手段に移行するのは当然の帰結です。HIT率が悪い郵便費用が5万円くらいかかっているのは、少数の古典的通信手段を残しながらメール等の電磁的通信手段を採用したほうが合理的だからです。

そこで、提案したいのは、各年度同窓会の一層の案内事務合理化のために、公式同窓会ホームページを開設し、そこに各年度同窓会の掲示板や投稿BOXを「ぶら下げる」という案です。

本稿は同窓会記が目的ですので、別途改めて提案しますが、コロナ渦が収束しない可能性も考えれば、オンライン同窓会の前提となるホームページ開設はその意味でも必要です。

無理なお願いとは存じますが、ご検討のほどよろしく願いして、擱筆します。



平成元年卒業生同窓会

令和元年8月11日(日)「令和元年度旧徳中・城南高校同窓会総会・講演会・懇親会」終了後、平成元年卒業生の同窓会を開催いたしました。県内外から65名の同窓生が阿波観光ホテルに集合しました。当時担任をしてくださっていた石川治郎先生・吉田通代先生・村岡直美先生にもご参加いただきました。30年ぶりの同窓生や先生方との再会は想像以上の感動でした。3名の恩師に近況も交えながらご挨拶いただき、石川治郎先生の乾杯のご発声で歓談が始まりました。とても懐かしい顔ぶれが揃い、高校時代の記憶が甘酸っぱくよみがえり、各クラス毎のテーブルでは高校時代の思い出やお互いの近況など話に花が咲きました。余興では、ギタリストの堀尾和孝さんによるトークライブで会場内は大変盛り上がりしました。数々のライブに参加され、国内外のアーティストのプロデュース・編曲・レコーディングなど多数手がけられている堀尾和孝さんのお話と演奏を生で聴く

山元みどり 平成元年卒

ことができとも感激しました。記念撮影、校歌斉唱を終え笠松哲司さんの万歳三唱で、名残を惜しみつつ再会を約しながら散会となりました。当日は本当に楽しい一日でした。卒業して30年、この同窓会をきっかけに同窓生の関係がずっと繋がっていただけることを願っています。

最後になりましたが、同窓会を開催するにあたり、ご協力いただきました同窓会事務局の高木純一郎先生や幹事の皆様にご心より感謝申し上げます。



2020年正月同窓会の報告

久米晋輔 (昭和51年卒)

昭和51年卒同窓会は割合頻度高く開催している方だと思うのですが、実のところ、今年はもともと開催予定の年ではありませんでした。還暦を迎えた年に執り行ったばかりで、今年はちょっと中途半端。「でも、やりたいよね」という声に押されて、急遽幹事をやることになりました。「今年やるとしたら、東京オリンピック記念か」とか何とか言いながら。

幹事といっても、東京在住の身で実際にできることは、出欠のとりまとめくらい。いろいろとすったもんだしながら、徳島地元のみなさんに助けられて、何とか楽しく盛会に終わることができたというのが実情です。

しかし、今にして思えば、よくこのタイミングで同窓会をやろうと決断したものです。新型コロナ旋風の吹き荒れる今となっては、密閉空間に大勢の方にご参集いただき、密接に会話を交わすなど夢のまた夢。本当にやっておいでよかったです！



我々もお正月には子や孫を迎えるような歳になってきており、次回からは開催時期も見直そうという話で締めましたが、それはいつのことになるのやら。旧交を温めるためにも、一刻も早い新型コロナ禍終息を祈ってやみません。

医師として母としてオペラ歌手として

西田玲子 (旧姓石川) (昭和53年卒)



自転車で眉山を半周しながら通学した城南時代。生徒会で文化祭を取り仕切ったことや合唱部で歌ったこと、主演した8ミリ映画「ザ・グレート・カンニング」(吉川浩司監督)が全国大会で第2位を受賞し四国放送で全編上映されたことなど、思い出のいっぱい詰まった3年間でした。

徳島大学医学部を卒業後、産婦人科医を志したのは、当時、産婦人科の女医は1割にも満たず、羞恥心から受診をためらう女性の力になりたかったことや、私が女性として経験する心や体の悩み、出産や育児の体験が患者さんに向き合う際にプラスになる筈だ、と思ったからでした。一度は東京に出てみたいと、東京の大学病院に入局しました。

内科医の夫と29歳で結婚。長女を出産後、夫の研究留学に伴いアメリカ・コロラド州デンバーに移住し、国立公園のキャンプ旅行など大自然を満喫しました。次女をアメリカで出産した経験は、帰国後の診療にとっても役立ちました。1995年横浜市で医院を開業。開業準備中に三女を出産しましたが、保育園を2つ掛け持ちする状況が続きました。結局、子育ての10年間で公立、私立、無認可、駅前、院内託児所、など合計7つの保育園を経験するという、まさに東奔西走の日々でした。休診日にはボランティアでお母さんコーラスを15年間指導・指揮しました。

高校時代から声楽、オペラに興味がありました。開業した横浜市の医師会に「洋楽部」という、趣味でクラシックを演奏する医師や家族の集まりがあり、歌を本格的に習い始めました。46歳時にコンクールで入賞し、横浜でリサイタルデビューしました。更

に両親の金婚式のお祝いを兼ねて徳島でもリサイタルを開催。力試しで受けた藤原歌劇団のオーディションに合格し、53歳という遅咲きながら、プロのオペラ歌手となりました。

徳島や東京、横浜で数多くのコンサートに出演し、オペラ「愛の妙薬」「蝶々夫人」「ボエーム」の主役を歌いました。「歌う産婦人科医」として、思春期や更年期の講演会 & 演奏会、介護施設での訪問演奏、国際学会などでの演奏の他、徳島大学主催の学会では大塚国際美術館のシスティーナ・ホールで演奏、昨年はイタリア・ミラノで歌いました。

筋ジストロフィーという難病の詩人を知り、心に響く詩を歌にして、悩み苦しむ人たちに生きる勇気と希望を持ってもらいたいと、所属する及川音楽事務所の10人の作曲家が16曲を作曲し、全てを私が歌ったCD「光あるうちに～鈴木信夫の詩による歌曲集」(Beltaレコード)を発売しました。東京での演奏会の模様はNHK「おはよう日本」で全国放送されました。そのうちの数曲は合唱曲にも編曲され、2年前の徳島でのリサイタルには城南のOB主催の男声合唱団「響」が出演して下さいました。総合授業の中で歌と詩を取り上げてくれた小学校もあります。2年前に医院を閉院しましたが、これからも医療と音楽を通して心と体の癒しにつながる活動を続けたいと思っています。



おめでとうございませす

(敬称略)

令和元年度 秋の叙勲

旭日小綬章

森 秀司(70) 昭和43年卒
保健衛生功勞
阿南市富岡町木松651

旭日双光章

今井 義禮(72) 昭和40年卒
保健衛生功勞
徳島市佐古七番町152

瑞宝小綬章

木村 潤(71) 昭和42年卒
教育功勞
徳島市入田町春日227

谷川 孝司(71) 昭和41年卒
防衛功勞

小松島市大林町森ノ本26515

田中 康弘(71) 昭和41年卒
防衛功勞

埼玉県入間市豊岡
1545751404

令和二年度 春の叙勲

旭日小綬章

久次米 尚武(75) 昭和38年卒
地方自治功勞
徳島市勝占町中須168

瑞宝小綬章

泉 潤慈(70) 昭和43年卒
稅務行政事務功勞
兵庫県洲本市海岸通25259

旭日双光章

神山 有史(74) 昭和39年卒
保健衛生功勞
名西郡石井町石井字石井
251051

令和二年度 春の褒章

藍綬褒章

加賀 晃次(75) 昭和38年卒
更生保護功勞
板野郡松茂町笹木野字八北開拓
36853

後援会活動

(令和元年度実績・令和二年度計画) について



後援会長 酒池 由幸 (昭和50年卒)

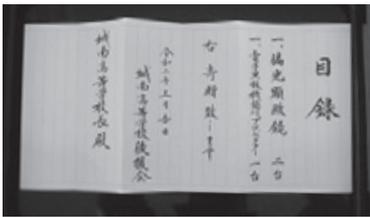
旧徳中・城南高等学校同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、後援会活動へのご理解、ご支援をいただいておりますことに心からお礼を申し上げます。

さて、二年度の支援事業として、偏光顕微鏡2台、電子黒板機能付プロジェクター1台を寄贈することとし、3月26日に目録を贈呈しました。支援金額は55万円です。

一方、後援会への会費寄付金の納入については、個人67名の方から68万8千円、団体として阿波銀行、徳島大正銀行、日亜化学工業、徳島県庁、徳島新聞社、徳島市役所、四国放送の7支部から計91万6千円のご協力をいただき、合計で160万4千円のご入金をいただきました。

令和2年度の支援事業については、学校側と協議の上、適切な支援を行って参りたいと考えておりますので本年度も後援会へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



◆会費等振込先◆

会費は一口5,000円(何口でも可)
講座名はいずれも「城南高等学校後援会」

金融機関名	店番号	口座番号
阿波銀行本店	100	普通 1192723
徳島銀行本店	001	普通 7815411
(ゆうちょ銀行)	口座記号	番号
	01680・2	60805

令和元年度城南祭で同窓会文化祭を開催

城南高校同窓会展示作品目録

伊丹通公 S41	書	狐煙盡	
大西利津子 S51	油絵	フローラ	
小倉長夫 S41	からくり玩具	からくり屏風 板返し (バタバタ)	
加藤真志 S41	フラワーアレンジメント		
川竹道夫 S41	電子工作	3D プリンター	
	3D 作品	ロボット (スマホ・コントロール)	
	3D 作品	時計の脱進機 (エスケープメント)	
	3D 作品	錯視オブジェクト	
	文房具	木軸万年筆	
	楽器製作	ヴァイオリン	
河野知宏 S41	帆船模型	Sovereign of the Seas	
木田史子 S41	書	馬場あき子の歌 中島みゆきの詩 ~雪の粒いくつ~	
小柴 康 S41	仏像彫刻	俱利伽羅龍王 釈迦如来	
住友京子 S51	写真俳句	「初めての令和の夏」 ~はつなつのケモノが岩に見え隠れ~ ~うたかたは夏の紋様魚もまた~ ~秋空へ大型バスでさあ出発~	
萩森圭子 S41	日本画	増長天	
原 常雄 S41	木偶人形	ガブ 人形の手	
藤谷理一郎 S41	プラモデル	カスモサウルスの親子 1/35 ティラノサウルス 1/35 パラサウロロフス 1/35 ジープ 消防車 1/24 スバルサンパー 消防車 1/24 T型フォード消防車 1/24	
森 英雄 S41	水彩画	薫風	
湯浅正明 S41	油絵	フラメンコ・ダンサー	
吉崎住夫 S41	糸鋸作品	文化祭看板	
	酒造り	梅酒	
善成敏子 S51	写真	伊勢齋王祭り・禊 (みそぎ) の儀 祭、駆ける!	
渡部求仁子 S41	油絵	ふたり	

川竹道夫 (昭和 41 年卒)

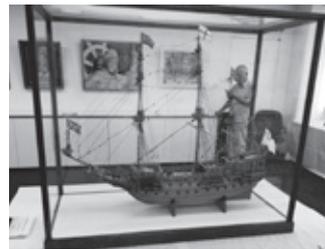
文化祭開催の発想は、41 年卒の 50 周年記念同期会で河野知宏君が発案し開催されたことは、会報 92 号でお知らせした。同窓会での活動となると体育会系はゴルフ、野球など活動が盛んだが、文化方面はあまり目立ったつながりがない...。というわけで、「文化部同窓生ネット」を立ち上げ、文化活動をしている人に声をかけて、城南祭に一室をお借りして、文化祭開催にこぎつけた。出品目録の如く、多彩な内容となり、一日の展示であったが 150 名の父兄と思われる方々の入場があった。現役の城南生は自分たちの文化祭に忙しいのでなかなか見てももらえなかったのは残念だが、学生たちの作品は見事だった。



後日、出展者の懇親会では、来年もやろうとの声が多かったが、コロナ事情により今年度は中止。2021 年に向けて再スタートを切りたいと思う。一年後の開催に向けて、興味のあるかたは、事務局にメールを下さい。



「50 年ぶりの文化祭」
QR コードを読み込んで、
リンクをクリックすると、
見ることが出来ます。



住友 京子 (昭和 50 年卒)

ここ数年楽しんでいるスマホで撮った写真に拙い俳句を付けた写真俳句を、城南高校時代からの旧友からお誘いを受け、昨年秋の母校の文化祭に出品させていただいた。全国公募の写真俳句の部門もこの節は多々あり、年々応募数が増えている分野でもある。私が毎年四回かかさずに応募しているのは俳句日本、という先で、事務局が珍しくも徳島市佐古だから親近感を感じて続けているのかもしれない。

出展に際しては文化祭お世話役の川竹様にオンブに抱っこ、丁寧にもパネルにさせていただき、何の煩瑣もなく当日を迎えることが出来た。立派な写真部門の作品の横に並ぶにはあまりに技術が拙いが、そこは素人芸、俳句とのコラボという偉業種合体の妙?! のネコ騙し術、枯れ木もなんとやら状態だった、と自負している。

「フラワームーン 青の我が町 見守れり」

昨今のコロナ禍では撓められた日常の中、どうか自分慰めの術を修行しなければならぬ。自室や散歩の際のささやかな一コマを携帯やスマホに収め、俳句や川柳、短歌をつけてみる、は 日記がわりにいかがだろう。日々空には絶えず雲が流れ、夕方には月が登る。子らはどこにいても成長しつつづけている。



編注：とても美しいブルーなのですが、白黒写真になってしまいました。

同窓会事務局からお知らせ

本年 5 月 23 日 (土) に同窓会役員会が開催され、11 名の出席のもと、令和元年度の決算および事業報告が承認され、令和 2 年度の予算および事業計画が提案・検討された結果、新型コロナウイルスの影響で、下記要領にて開催する運びとなっております。

令和 2 年度城南高校同窓会 理事会および総会

日 時 : 8 月 1 日 (土) 午後 1 時 30 分より
場 所 : 城南高校 大会議室

IT 化が叫ばれる中、事務局の PC もやっと Windows10 にバージョンアップ、役員会でもオンライン会議にトライし始めています。また、ホームページについては、新しいドメインに移行し、今後どのように運営・管理をしていくかが今後の課題であり、テレワークの環境づくりも含め役員会でも検討を重ねています。

編集後記

★会員の皆様の要望にオンデマンドに対応出来れば、と編集を引き受けることになり、オンラインの編集会議も楽しみながら、2 色刷りの版下作成が出来ました。シン



プルで読みやすい紙面を目指しますのでよろしく (道)
★たいへんな時期にもかかわらず、原稿をお寄せいただいたみなさん、編集作業に関わっていただいたみなさん、ご支援をいただいた多くの城南同窓生のみなさまに御礼申し上げます。(あ)
★なにせ初めての仕事であたふた、皆さんの楽しく心温まる原稿にほのぼの、そして編集から原稿集めやチェックにと活躍してくださった川竹副会長、粟飯原会長、皆さんに感謝です。(た)

第9回 渦の音ゴルフコンペ報告

- ★個人戦優勝 濱崎 智子さん(昭和63年卒)
- ★団体戦優勝 昭和32年卒
(美馬さん、三谷さん、中富さん、斎賀さん)

令和元年10月13日(日)サンピアゴルフクラブにおいて、旧徳中・城南高校同窓会「第9回渦の音カップゴルフコンペ」が総勢115名(参加組数31組)という開催以来最高参加者数で開催されました。

個人戦優勝は、グロス85 ネット70.6、開催初女性の優勝者濱崎智子さん(昭和63年卒)でした。男性107名、女性8名の参加の中、素晴らしいスコアで優勝していただき、同じ女性として大変誇らしく嬉しい優勝でした。ここにゴルフは年齢、性別を超えて楽しめるスポーツであることを改めて感じました。

団体戦優勝は、グロス265、ネット217.0、昨年個人戦優勝された美馬さん率いる三谷さん、中富さん、斎賀さんの昭和32年卒のチームでした。準優勝は昭和60年卒チーム、第3位は昭和47年卒チームでした。みなさまおめでとうございます。

また今回は、幹事の呼びかけで、過去に参加のなかった学年にも多数ご参加いただき、昭和28年卒から平成20年卒の卒業生が集い、ゴルフを楽しむということ以上に素敵なイベントになったと感じました。

表彰式には、粟飯原同窓会会長(昭和48年卒)もご列席いただき、発起人の森元後援会会長(昭和37年卒)より、各賞豪華賞品をお渡しいただきました。団体戦は第3位まで、個人戦は5位までの各賞、飛び賞(サンピアゴルフクラブのご厚意でサンピア賞としました)、BB賞、ドラコン賞、ニアピン賞、男女ベスグロ賞、そして昭和55年卒が幹事ということで、特別賞として55位の方にダイソンコードレス掃除機(大会一番の豪華賞品)が贈られました。



(昭和55年卒 網島久美子)

残念ながらどの賞にも該当されなかったみなさまには、参加賞として季節のフルーツの詰め合わせをお持ち帰りいただきました。



今回は、当日大型台風が徳島を直撃するという予想で、前日まで開催できるかどうかご心配をおかけしましたが、当日は時々晴れ間も見える天気にも恵まれ、城南健児の熱い思いが天に通じた奇跡だと感じました。

最後になりましたが、引継ぎや準備にご協力いただきましたみなさまのおかげで滞りなく無事開催することができましたことをこの場をおかりしてお礼申し上げます。また多くの卒業生のみなさまに開催までお電話やメール等でご連絡を差し上げた際には、温かく優しく接していただいて、城南高校の卒業生で本当に良かったと実感いたしました。ありがとうございました。

今回は第10回の記念大会となります。この原稿を依頼された現在は、コロナウイルス感染拡大により世界中が混乱し、様々なスポーツや東京オリンピックまでも中止や延期となっております。今後どうなるのか大変心配なところです。秋には落ち着き、いつもどおり秋空の下、多くの方々に笑顔でご参加いただけますようにと願うばかりです。城南健児のパワーでコロナウイルスを吹き飛ばしましょう。

旧徳中・城南ゴルフコンペ 第10回「渦の音カップ」ご案内

日時: 令和2年10月11日(日)
午前8時32分スタート(32組)
場所: サンピアゴルフクラブ
参加費: プレーフィ13,780円(食事代別)
コンペ費1,000円
ハーフコンペ(9H)集計
表彰式は行いません。
幹事: 谷田孝二、内藤理、今田圭一(S56卒)
呼びかけ人: 森 壮太郎(S37卒)

《お申し込み》
参加者氏名・卒業年度・連絡先を記載して同窓会事務局にFAXかメールにてお願いします。エントリーは9月5日(土)締切で先着順とさせていただきます。
詳細は、谷田(090-3181-5603)まで

事務局の案内

同窓会などのお問い合わせは下記の事務局までお願いします。
同窓会・後援会ホームページもご活用ください。

旧徳中・城南高等学校同窓会事務局

〒770-8064
徳島市城南町2丁目2-88 城南高校内
船越 隆子(昭和51年卒)
Tel.: 088-652-0084
FAX: 088-656-0484
✉ info@jonan-ob.com
🌐 https://jonan-ob.com

渦の音クラブ(関東支部)事務局

〒112-0001
東京都文京区白山4丁目24-17
三橋 浩志(昭和59年卒)
✉ info@uzunooto.jp
🌐 http://uzunooto.jp
Facebook
日々の活動はフェイスブックでも発信中
「渦の音クラブ」に「いいね」をよろしく

城南F5会(近畿支部)事務局

〒665-0845
宝塚市栄町3-1-11-903
事務取扱は下記まで
〒771-2501
徳島県三好郡東みよし町昼間573-2
糸田川 廣志(昭和42年)
hiro4823ito@yahoo.co.jp

発行ご支援金の 御礼とお願い

「同窓会報」は、これまで家政科、通信制課程の卒業生のみなさまをはじめ、多くの同窓生のご支援で発行することができました。篤く御礼申し上げます。引き続き同窓生の絆「同窓会報発行」に「1口2千円」のご支援をお願いいたします。同封の振込用紙をご利用ください。

ゆうちょ銀行 加入者名: 城南高校同窓会会報係 口座番号: 00140-0-710668